



海外研修(ハワイ)2016実施報告

著者	伊藤 優子
雑誌名	佐野短期大学研究紀要
号	28
ページ	109-115
発行年	2017-03-31
URL	http://doi.org/10.15109/00000098

海外研修（ハワイ）2016 実施報告

Implementation Report on Overseas Study in Hawaii in 2016

伊藤 優子*

Yuko Ito

Abstract:

Sano College provided a 6-day training program in Hawaii from 12th to 17th September in 2016. This report analyzes current conditions of tourism industry and bridal industry there and describes the reason why Hawaii was chosen for a training program. The report also explains the program curriculum in detail and introduces the feedback of students who participated in the program and finally refers to the tasks ahead.

キーワード：

ハワイ、観光、ブライダル、ホテル、ハワイ文化

I. はじめに

佐野短期大学で実施している現在のハワイ研修は平成28年度で2回目である。2回目は第1回目と同様に、平成28年9月12日～17日の4泊6日の日程でオアフ島ホノルルでの研修であった。今回は男子学生2名、女子学生11名の合計13名の学生が参加した。1回目は6名の参加で観光フィールドの2年生が参加し、非常に好評だったため、次の学年への影響も大きかったと考えている。平成27年度の参加者は観光フィールドの学生であり、全員がフラサークルのメンバーである。平成28年度に参加した女子学生11名中、9名はフラサークルのメンバーである。ハワイはフラダンスの本場であるということも参加決定の大きな要因となっていると思われる。さらに学生の様子を見ていると、先輩、後輩のコミュニケーションの中で、参加の可否が

表1 平成27年度参加者の内訳

学年	所属フィールド	人数
2年	観光	6名

表2 平成28年度参加者の内訳

学年	所属フィールド	人数
2年	観光	7名
2年	医療事務	2名
1年	観光	3名
1年	英語	1名
	合計	13名

決定される傾向にあるようだ。

II. ハワイを研修先に選定した理由

海外研修をハワイで提案した理由は、ハワイは観光業界およびブライダル業界にとっては特に重要な場所であることが挙げられる。

*佐野短期大学 総合キャリア教育学科 Sano College Associate Professor

ハワイは海外旅行の永遠のあこがれの場所である。かつてから、海外旅行の初心者の目的地はまずは、ハワイというのが定番であった。

1964年は観光業界にとっては、節目となる年である。東京オリンピックが開催されたこの年に東海道新幹線が開業した。さらに日本の海外旅行が自由化された年でもある。それから53年目となる現在に至るまで、ハワイの人気は衰えることなく、誰もが憧れ、訪れたい海外旅行の目的地である。

2011年から2014年の日本人の海外への出国者数の推移は表のとおりである。

アメリカは2012年から2014年のデータでは、渡航目的地で1位の順位である。さらに詳しく見てみると、アメリカの中でもハワイへの渡航者が非常に多い。アメリカの1州のひとつであるハワイへの出国者数で順位をつけるると以下ようになる。

中国および韓国への渡航者は非常に多いが、

この数字はあくまでも出国者数であり、必ずしも観光目的だけではなく、海外への出張、ビジネスなどその他の目的の数も含まれている。そのため、数が多いところが観光地として一番人気があることとイコールにはならない。例えば、中国はビジネス目的の出国者も多い。お隣である韓国は、近いという距離的なメリットと文化交流が盛んで、音楽、ドラマ、映画などのファンが多いことも上位になる要因と考えられる。出国者の順位では、中国や韓国の数字には及ばないが、ハワイの人気は衰えていない。それは新婚旅行の動向調査でもハワイが人気の渡航地であることがわかる。

JTBの2002(平成14)年の「秋のハネムーン動向」調査によると、旅行先は、海外が国内を超えた1979(昭和54)年から1986(昭和61)年まで8年連続してハワイが首位であった。しかし、その後9年間はオーストラ

表3 日本人出国者渡航目的地数ランキング

年	1位	2位	3位	4位	5位
2011年	中国	韓国	アメリカ	台湾	香港
2012年	アメリカ	韓国	中国	台湾	タイ
2013年	アメリカ	中国	韓国	タイ	台湾
2014年	アメリカ	中国	韓国	台湾	タイ

出所：日本政府観光局データ

表4 日本人出国者渡航目的地数ランキング(ハワイを別にカウントした場合)

年	1位	2位	3位	4位	5位
2011年	中国	韓国	台湾	香港	ハワイ
2012年	韓国	中国	ハワイ	台湾	タイ
2013年	中国	韓国	タイ	ハワイ	台湾
2014年	中国	韓国	台湾	ハワイ	タイ

出所：日本政府観光局データ

表5 2014(平成26)年の日本人出国者

順位	国名	人数
1	中国	2,717,600
2	韓国	2,280,434
3	台湾	1,634,760
4	ハワイ	1,510,938
5	タイ	1,267,886

出所：日本政府観光局データ

リアが首位になり、1996（平成8）年以降は1997（平成9）年を除き、ハワイが首位を奪還し、今日に至っている。¹⁾

一方で、ブライダル業界は、少子化、高齢化、女性の社会進出などで、ニーズの変化が著しい。今までのありきたりでパッケージとなっているものとは異なり、オリジナリティ、自分らしさ、個性というものを求められている。また家族や会社との付き合い方も変わってきている。海外旅行も一般化し、結婚式と新婚旅行を一体化した海外ウエディングも需要がある。またかつての海外ウエディングは、言葉が通じないのではないか、日本人にあわないヘアメイクではないかなど、サービス面

での不安が多かったが、今は全てのスタッフのほとんどが日本人で対応する形式で、ブライダル業界も不安を取り除く対策を行っている。

こうした現状を考えると、ハワイは観光やブライダルを専攻する学生にとっては、学ぶ面が多い。できるだけ、現地の現状を自分の目で見て、確かめ、学ぶことで将来の職業選択にも有効だと考えたことが、ハワイを研修先として決定した理由である。

III. 研修プログラムの行程

海外研修（ハワイ）の行程表は表6の通りである。9月12日に成田空港を出発し、ハ

表6 海外研修（ハワイ）の行程表

日次	月日 (曜)	地名	交通機関	予定	食事
1	9/12	成田空港 東京(成田)発	航空機	各自 成田空港集合 空路ハワイへ	夕:機内
				[国際日付変更線通過]	朝:機内
		ホノルル	専用バス	観光研修 ヌアヌ・バリ、パンチポウル、DFS イオラニ宮殿など研修後ホテルへ 《ホノルル泊》	昼:○ 夕:—
2	9/13	ホノルル	専用バス	ブライダル研修 コスチュームショップ、ヘアメイク研 修、教会研修 ウエディングディナー 《ホノルル泊》	朝:○ 昼:○ 夕:○
3	9/14	ホノルル	専用バス 徒歩	ホテル研修 ハワイ文化体験 (リボンレイ)	朝:○ 昼:— 夕:—
4	9/15	ホノルル		個人研修 さよならディナー 《ホノルル泊》	朝:○ 昼:— 夕:—
5	9/16	ホノルル	専用バス 航空機	ホテル出発 空港へ 空路、帰国の途へ 《機中泊》	朝:○ 昼:機内
6	9/17	東京(成田)着 成田空港		日本到着 成田空港で解散	昼:機内 夕:—

ワイで4泊し、9月16日のフライトで、1泊機中泊し、9月17日に成田空港に戻ってくるスケジュールである。

この行程表には書いていないが、成田空港の集合は通常、3時間前ほどであるが、研修では6時間前に集合し、成田空港の施設見学を行っている。空港に来る機会もあまりない学生も多いため、空港の研修は現場を良く見られる経験だ。特に観光ビジネス実務演習という観光フィールドの科目を受講している学生にとっては、授業の内容をなどで実際に確認できる機会となる。例えば、航空会社は2文字のアルファベットで、都市および空港は3文字のアルファベットで表示する。これは総合旅行業務取扱管理者という国家試験にも出てくるものであり、何より航空関係者、観光関係者は必ず、必要となる業務知識である。それは空港に行けば、重要であることが理解できるのである。

IV. 研修の内容

1. 1日目 観光研修

研修プログラムの特徴は、観光とブライダルの要素を盛り込んだ内容となっている。1日目は、ハワイに到着後に一般的な観光を行う。ハワイは日本との時差が19時間あり、夕方から夜便を利用すると、ハワイに到着が出発同日の朝になる。ホテルのチェックインは通常、15時以降となっているため、ハワイの午前中の観光は、その時間を埋める役割も果たしている。観光、昼食、免税店の入店のための手続き等で、時間を費やし、午後のチェックインにあわせることになる。この時間帯の飛行機を利用する場合は、簡単なハワイ観光を行うのはどんなツアーにおいても同様である。もし何度もハワイを訪問し、観光はしたくないということになると、アーリーチェックインといって、有料で早めにホテルをチェックインすることができる。初心者や慣れていない人は、アーリーチェックインは

費用もかさむため、節約のために午前中は観光で時間を費やすことになる。

旅行関係の仕事を希望する学生には、ハワイは特徴的な手続きになるので、学ぶ要素が多い。10名を超える人数のグループでは、他の地域ではない手続きを行っている。ホノルル空港に到着後、預けた荷物、つまりスーツケースはグループと一緒にバスに積まず、荷物だけホテルに別便で送る方法をとっている。これは他の観光地では行っていない、ハワイ独特の扱いである。旅行関係の仕事を希望する学生には空港の施設や流れも当然だが、到着後の荷物の扱いや動きも細かく説明を行うようにしている。実際に、昨年度も今年度も旅行会社に内定をもらっている学生がいたため、特に詳しい説明を行った。

2. 2日目 ブライダル研修

2日目は1日かけて、夕食のウエディングディナーまでブライダル研修である。午前中は、徒歩でJTBホノルル支店を訪問し、JTBの会議室を利用し、プロのヘアメイクスタイリストによる、実践研修である。これは、学生を1名モデルにして、実際のブライダルで行なうヘアメイクを体験する。よく海外ウエディングを希望する人からヘアメイクについての質問をされる。それは、ハワイのヘアメイクは外国人風のものになり、日本人には合わないものになり、仕上がりが心配であるということだ。実はこの問題は全く、心配するに値しない。現在のヘアメイクの担当者は全て、日本人で日本での国家資格を有し、経験もあり、しかも多くのスタイリストはハワイでの資格も持っているプロフェッショナルがほとんどであるからである。学生も驚くくらい、参考になる雑誌は全て、最新の日本のヘアメイクの雑誌をそろえ、今のトレンドも全て把握している。しかも現場で毎日のようにウエディングヘアメイク行っているため、今のお客様のニーズも非常によく把握している。

最初に日本語でお客様の希望などをヒヤリングし、お客様の希望を確認しながら、さらにハワイにおいて注意すべきことを伝えて、仕上げていく。

研修では、時間の許す限り、学生の好みである複数のヘアを仕上げるが、今回は2種類のヘアを仕上げてくれた。学生は、プロのヘアメイクスタイリストがどんなブランドのメイク用品を、どのように扱い、活用しているかを熱心に学んでいた。

次に昼食をはさんで、教会研修である。今回はダウントウン、ワイキキエリアから車で15分くらいの教会を2か所見学した。ブライダルでは教会とチャペルがあるが、教会は信仰、宗教の場所である。カトリックでは戒律が厳しいため、信者でない日本人が利用する教会はプロテスタントの教会になる。チャペルは日本のブライダル会社が商業用に建てた施設である。今回はチャペル訪問ではなく、教会のみであった。授業では教会とチャペルに違いを学ぶのだが、残念ながら授業内では視覚的にはっきりと比較ができないため、分かりにくい点もあるが、実際に見学することで宗教施設であることを理解させるには十分であった。

3か所目はコスチュームサロン訪問である。学生にとってドレスは憧れであり、ましてやウエディングドレスとなるととても興味関心が高いものである。今回は、ウエディングドレス1名とブライズメイド2名の衣裳を

着用する機会があった。ブライズメイドとは、海外では一般的であるのだが、新婦に付き添う、姉妹や親友などのことである。ブライズメイドになると、おそろいで衣裳を用意し、2～3名程度、多い時は5～6名で新婦をサポートする役割を果たすのである。日本ではあまりない習慣であるが、海外の映画などでは出てくることがある。

最後にワイキキビーチに面する高級ホテルでのディナーである。海外ウエディングではほとんどがハワイでは披露宴を行わない。その代わりに、家族交流を目的としたお食事会を開くことが多い。今回は新郎新婦にも好評のレストランである。ワイキキビーチの高級ホテルのレストランで、外に出れば、ワイキキビーチの砂浜で、サンセットが見られるという最高のロケーションでのディナーである。学生には印象の残る大満足の1日であった。

ウエディング研修では、1日の一連の流れを学生が体験する内容となっている。全員ヘアメイクができ、ウエディングドレスを着用できればいいのだが、予算の都合上、限定人数で行なっている。

3. 3日目 ホテル研修およびハワイ文化体験

3日目はワイキキ地区の高級ホテル、ヒルトン・ハワイアンビレッジでの研修である。日本人スタッフからホテルのパンフレットなど資料が配布され、その資料を基に、ホテル内



写真1 コスチュームショップ



写真2 カワイアハオ教会

の各施設を見学する。学生から好評だったが、普段見ることができない、ハイクラスの部屋の見学である。自分たちが宿泊しているホテルはいわゆる安価なカテゴリーで、ヒルトンは高級ホテルのカテゴリーである。部屋の設備や広さ、景色の良さなどを体感できた。また日本人スタッフとの質問タイムなども盛り込まれ、ハワイの観光の現状やホテル事情を聴くことができ、有意義な研修となった。ホテルへの就職を希望する学生も多いため、参考になる内容であった。

午後はハワイ文化体験で、リボンレイメイキングを行った。布のリボンで首からかけるレイを手作りする。いわゆる裁縫であるため、時間を要する作業である。1時間半から2時間くらいの時間がかかる。しかしでき上がったものは、ハワイでのいい思い出となるだろう。



写真3 リボンレイ

4. 4日目 個人研修およびさよならディナー

この日は1日中、さよならディナーまで個人研修である。まずは朝から市バスに全員で乗ってみた。本日の目的地のアラモアナセンターまで歩くことも可能だが、バスに乗ることも学びであると考えた。実際、バスの乗り方も日本と違うことを学生は驚きをもって受け止め、自分で乗るときのための確認をしていたようだ。アラモアナセンターは日本人がハワイに行くと、ほとんどが訪れる場所の一つ

となっている。ここには、デパート、ドラッグストア、レストラン、フードコート、有名ブランド、庶民的なショップ、ディズニーショップ、ハワイのコンビニであるABCストアなど多くの店が集まっている。学生はここで様々な体験をしたようである。ショッピング、ハワイの食文化、周辺の街並み散策、あらゆることを肌で感じようと積極的に動いたようだ。充実した1日を過ごした後は、鉄板焼きで有名な“田中オブ東京”でのハワイで最後の夕食である。

自分たちで食べるときは、コンビニやマクドナルドを利用し、レストランでの食事はあまりしなかったようだ。目の前でパフォーマンスを鑑賞しながらの鉄板焼きは満足度が高い食事になった。落ち着いた雰囲気を楽しむ、食事を楽しんだようだ。

5. 最終日～帰着

この日はホテルのチェックアウトをして、日本への帰国の日である。滞在中には特に問題はなかった。学生はハワイ滞在中に、自分たちで考え、行動できたことやハワイの素晴らしさに満足したようだ。帰りの飛行機の席は多少ばらつきがあったが、すでに13名のコミュニケーションは良好だったため、お互いに譲りあい、気づかいをしてそれぞれが席に落ち着いた。機内では各自が休息を取りながら、帰国の途についた。日本到着までも順調であり、成田空港で現地解散をした。学生は晴れ晴れした顔で、満足感に満ちていたようだった。

V. 研修を終えて

学生からはハワイ研修に参加してよかったと報告を受けた。中には1年の時にも参加したかったと言ってくれる学生もいた。ハワイ研修はハワイという人気のロケーションだからという理由だけでなく、研修の目的が明確になっていること、経験できないようなプログ

ラム内容が有意義だったことが学生の意見として聞かれた。

さらにプログラムを充実するためには何が必要かということを2年生に聞いたところ、もう少し自然を満喫できる内容を盛り込んでほしい、海を体験できるプログラムがあったらよかったという意見があった。観光研修の内容を充実させることやオプションツアーなり、危険の少ない海での体験を盛り込むことも検討の余地がある。しかし、観光の学生を中心に考えるのであれば、観光、ガイド、ホテルといった内容はある程度、盛り込んでいるため、研修する場所の数を増やすなど、手を加えていくことも考える必要がある。

引用

1) 観光概論第9版（2014年）p.69

参考文献・参考サイト

観光概論第9版（2014年）JTB 総合研究所
日本政府観光局 <http://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/20160901.pdf>

児童家庭福祉制度と学生による児童虐待防止運動 (オレンジリボン運動) の取り組み

Child family welfare system and Action of the prevention of child abuse campaign by the student (orange ribbon motion)

大熊 信成*

Nobunari Ookuma

Abstract:

This study is spelled about "the orange ribbon exercise" that is a prevention of child abuse campaign.

Child welfare is to guarantee the life of the child in hope of the happiness of the child.

Prevention of child abuse is cited in the welfare needs that appeared recently.

The number of child abuse of 2015 becomes 103,260 cases and is the most so far. There is the most psychological abuse.

In the Sano college social welfare field, I planned an event of "the orange ribbon motion by the student".

When what I send orange ribbon exercise to with a student in Tochigi has a meaning, in hope of "the social construction that is kind to child care", I do it, and the practice that is more concrete than 2015 is active. I want to continue this activity in future.

キーワード:

児童虐待、オレンジリボン運動、児童福祉法改正、スーパービジョン

1. はじめに

周知のように、近年、児童虐待が深刻な社会問題となっており、21世紀を担う児童にきわめて大きな影を落としている。児童相談所における児童虐待の相談処理件数は急増しており、早急な対策が必要であるとして、2000（平成12）年に「児童虐待の防止等に関する法律」が可決・成立し、同年11月から施行されている。この法律の最も特徴的なところは、児童虐待を受けた児童について、保護者の同意を得ずに児童を保護した場合、児童相談所長又は児童福祉施設の長が当該保

護者と児童の面会又は通信の制限ができることである。すなわち、事実上、親権の一時停止を認めたことである。アメリカなどと比較すると徹底した罰則規定がないことなどが懸念されるところであり、早急の改善が望まれる。我が国は21世紀になり、児童家庭福祉をはじめとする社会福祉は大きな転換期を迎えたといっても過言ではない。一連の社会福祉基礎構造改革の中で、社会福祉の再編成が強調され、従来の措置制度から利用（契約）制度に転換するという社会福祉のパラダイム転換が図られた。すなわち、福祉はサービス

*佐野短期大学 総合キャリア教育学科 Sano College Professor